

3 「4S活動」について

○それってなに？

4Sとは「整理・整頓・清掃・清潔」の頭文字をとったもので、それぞれの意味は右表のとおりです。4Sに躰(しつけ)を加えて5S活動として実施している事業場もあります。

4S活動を定着させることによって、労働災害の発生要因を未然に見つけ出すことなどの安全面の効果が期待できるとともに、作業効率の向上、誤操作・誤動作の減少、モラルや品質・環境面の水準の向上などにより、生産性の向上も期待できます。

○実施方法

4S活動は、「全員参加」が基本ですが、一歩間違えると責任分散を招いてしまうおそれがあることから、まずは責任分担を明らかにしましょう。4S、すなわち「整理・整頓・清掃・清潔」のそれぞれについて、対象場所を、だれが、いつ、どのように実施するのか明文化するところから始めます。

実施グループごとの対象場所を示すものとして、4Sマップを作ります。4Sマップに空白の場所があってはなりません。一つの建物の中に担当職場の異なる物置きがあったり、便所、休憩室などの共通の利用箇所が存在している場合があります。また、建物と塀との間など、通常の業務では立ち入らない場所が抜けてしまったり、いい加減に記入されたりします。4Sマップは大きくりのものにならないように、きめ細かく作ります。

管理監督者が先頭に立ち、他の模範となることも大切なポイントです。監督者の机の上や作業場所の周辺が汚れていれば、4Sの指導をしてもだれも付いてきません。

実効意欲を盛り立てるためには、多くの事業場で安全パトロール重点項目に4S活動の項目を入れています。一旦高い水準に達しても簡単に元に戻ってしまいますため、なかなか重点項目から外せないのが実情です。

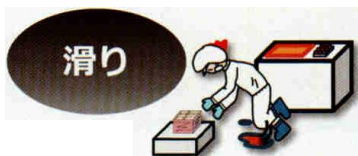
4S項目の評価には、ぜひともプラス評価も入れて公表しましょう。4Sの項目を細分化し、努力の効果を具体的にしながら良い職場はうんと褒めるようにします。

○4S活動は、転倒災害の防止に効果

転倒災害は、現在最も多い災害で、社会の高齢化等により年々増加傾向にあります。また、軽傷とみられがちですが、休業4日以上災害の6割が1か月以上となっており、転倒災害を甘く見ることは禁物です。災害の典型的なパターンは、「滑り(濡れた床などで滑り転倒する災害)」、「躓き(床の凸凹や荷物・商品などに躓き転倒する災害)」、「踏み外し(足下が見えない状態で階段などを踏み外す)」の3つです。

4S活動の中で、次の点についてチェックして下さい。

- ・歩行場所に物を放置しない。
- ・床面の汚れ(水・油・粉など)を取り除く。
- ・床面の凸凹、段差などを解消する。



4Sの意味とチェックポイント

整理: 必要な物と不要な物を分けて、不要な物を処分する。

- ①不要な物の廃棄基準はあるか。
- ②整理を推進する責任者は選任されているか。
- ③その責任者は定期的に職場巡視をしているか。
- ④整理の担当区分が定められているか。
- ⑤整理のためのチェックリストは作成されているか。
- ⑥廃棄基準などの見直しなどの検討会は行われているか。

整頓: 必要なときに必要な物をすぐ取り出せるように、わかりやすく安全な状態で配置、収納する。

- ①物の置き場所が定められているか。
- ②その置き場所毎に置く物の種類や数量が定められているか。
- ③置き場所毎に責任者が選任されているか。
- ④置き場所には適切な置き方が表示されているか。
- ⑤必要な物はすぐに見つかる状態になっているか。
- ⑥通路や階段に物が置かれていないか。
- ⑦整頓のための検討が行われているか。

清掃: 身の回りをきれいにし、作業場のゴミ・汚れ等を取り除く。

- ①作業場の掃除はなされているか。
- ②日常の掃除は行われているか。
- ③清掃の各人の受け持ち区域が定められているか。
- ④汚れやほこりの発生源対策が行われているか。
- ⑤作業場にゴミ箱が置かれているか。
- ⑥清掃状態の評価のためのチェックリストが作成されているか。
- ⑦清掃を推進する体制が整備されているか。

清潔: 整理、整頓、清掃を繰り返し、衛生面を確保し、快適な状態を実現・維持する。

- ①作業場が見た目で清潔な状態となっているか。
- ②疾病やケガが発生するようなどころはないか。
- ③中毒が発生するようなどころはないか。
- ④作業場が汚染されていないか。
- ⑤作業者の服装などは清潔な状態となっているか。
- ⑥個人用の保護具は清潔に保たれているか。